

沼津市青少年教育センター

たより

平成27年7月号 No. 512

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

大きな志を抱き育めるまちへ

学校教育課長 大川 淳

今年初上陸となった大型で強い台風11号は、四国と中国地方をゆっくり縦断したため、東日本も含めた広い範囲に長時間にわたり浸水などの被害をもたらし、交通機関にも大きな影響を与えました。この影響を受け、沼津市も二日間にわたり大雨警報が継続する状況となりました。

一方で世界に目を向けると、パキスタンという国は、モンスーンの影響で毎年大洪水に見舞われ何百万人という人たちが被災しています。特に、4年前の洪水では2千万人が被災し、約1万1千校の学校が洪水で崩壊し、6千の学校が避難所になったため、臨時学習センターがテントで作られました。パキスタンの子どもたちは、家も食べ物も学校も無い中、テントで勉強し自分たちを高めようとしてきたのです。

そのパキスタンから昨年、ノーベル平和賞受賞者が出ました。マララ・ユスフザイさんです。パキスタンは貧困等が理由で教育水準が低く、国民の4割は字が読めず、小学校に入っても働くために半数は中退し、女子の3分の1は入学することもできない国です。そのような状況下で、「女性は家で保護すべきであり、学校を含み外へ出してはいけない。」という考えを持つ武装勢力タリバンは、女子校を破壊してきました。これを批判したためにタリバンから銃撃されても、女性への教育の必要性を訴え続けたのが、マララさんです。

日本では、誰もが小中学校に通い、整った環境で勉強でき、友達と語り合い、温かい給食が食べられます。

ところが、このように世界へ目を向けると、今まで当たり前だと思っていたことが実は全く当たり前ではなかったことに気がきます。

「当たり前」の反対は「有り難い（滅多に無い）」であり、有り難いことに会ったとき、人は「ありがとう」という感謝の言葉が口から自然に出てきます。身の回りの様々なことを当たり前だと思わず、感謝の思いを持って見れば、自分がいかに多くの人たちに支えられているかが分かり、自分も周りの人たちのために動かなければという思いが高まります。それが、「志（こころざし）」を抱く第一歩です。

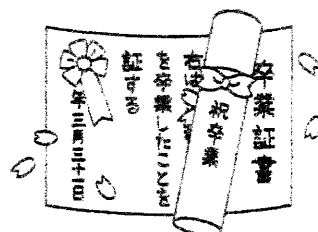
しかし、何を志すかは、自分で見付けなければ誰も与えてくれません。「沼津の子どもたちが大きな志を抱き育んでいける環境」を作るために、地域・家庭・学校（園）・行政が連携して、子どもたちの学びの場をまち全体に広げ、市民協働の視点から地域住民総がかりで応援したいものです。



モ・レ・ナ・クの形

沼津市立愛鷹小学校長 木内 和彦

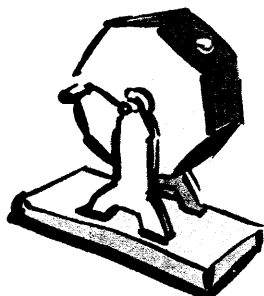
春、卒業式を終えた中学3年生の生徒が、その日の夕方、小学校の職員玄関にやってきました。6年生の時の担任に、「無事に中学校を卒業し、高校へ進学することになったこと」を伝えるためにやってきたと言うのです。担任だったA先生は、快く迎え入れ、「卒業おめでとう」と笑顔で声をかけていました。



生徒は、小学校低学年のときから集団で学習を進めることに困難さを感じており、当時の若い担任たちは指導に苦労していました。学年が上がれば上がるほど、生徒が発するサインは目立つものとなり、「悪い子」と周囲から見られるような行動が増えていきました。この状況に、生徒の保護者も悩んでいました。5、6年で担任したA先生は、普段から穏やかに話すことを心がけ、この生徒にも小さな目標を個人的に持たせて、根気強く支えました。また、たとえ学級で問題が起きても、今できていることとできていないことを皆にきちっと伝えることで、子どもたちの理解を得るよう努めました。こうした担任の対応は、周囲の子どもたちの非難からこの生徒を守ることにもなり、生徒はすっかり心を許し、保護者も深い感謝の意を示すようになりました。

A先生は、子どもや保護者とのつながりを大切に、温かみのある指導を続けるかたわら、管理職や支援員、カウンセラーなどのサポーターとのつながりも必要に応じ求めていました。連携することで、A先生自身にも多少のゆとりが生じたのかもしれませんが。

学校現場に勤務する私たち教員は、すべての子どもや保護者とよりよい関係を作りたいと願っています。しかし、複雑化する家庭や社会の状況から、学校だけでは思うように手をさしのべることができない場合もあり、沼津市青少年教育センターなどの関係機関との協働は必要不可欠となっています。国は、今後の教育改革を語る中で、「チーム学校」という言葉を用いるようになりました。チーム学校とは、教員と他の専門職（ソーシャルワーカーやカウンセラーなど）による新しい学校体制を指しているそうです。教員が一人でモレナク対応することから、再構成された組織でモレナク対応するシステムへの転換期がやってきているのです。



もうすぐ夏祭り。小学生が大好きなくじ引きがあります。偶然の巡り合わせで出会う教員と子どもの関係も、ともすると大人たちの中では、くじ引きに似た感覚でとらえられてしまうことがあります。例えば、「今年の先生はハズレだ」と言う保護者、「今年はこの子を受け持ててよかった」と思う担任。大人は、自身の経験や価値観あるいは先入観から、割と早い段階で、アタリかハズレかの二者択一の眼を持ってしまいます。子どもの方が、期待感を長く抱いている感じがします。

くじ引きには、「空くじなし」というモレナク何等かに当たるものもあります。くじを引く側にとっては、どこか安心感があります。子どもの育ちを支える側に立つ私たちは、率先して空くじなしの状況を作り、できればいろんなアタリを用意したいものです。

面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
 青少年に関する面接相談。
 ◎相談および申し込み受付時間：
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎相談申し込み：Tel 951-3440

平成27年4月・5月・6月の状況

4・5・6月には新たに申込みがあった17件（4月5件、5月4件、6月8件）
 を含め、55件（延べ相談回数322回）の相談に応じました。

1. 相談内容別新規相談件数

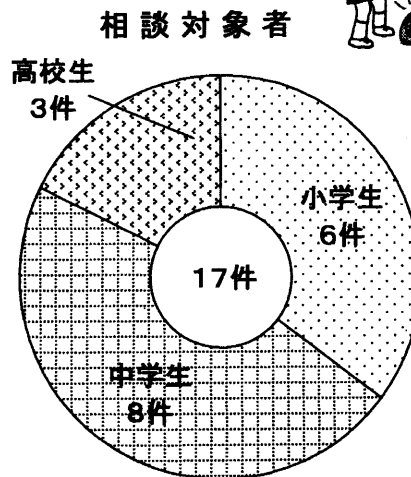
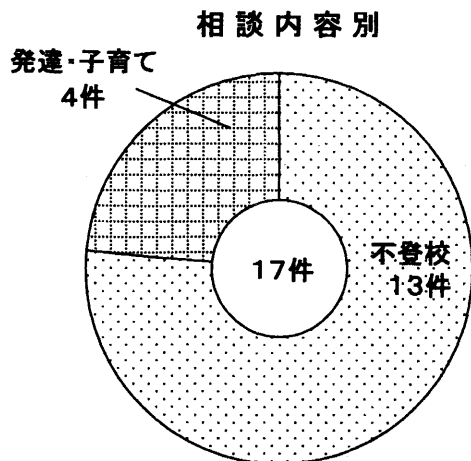
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
4月	0	5	0	0	0	0	5
5月	0	2	2	0	0	0	4
6月	0	6	2	0	0	0	8

2. 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
4月	0	1	2	2	0	0	5
5月	0	1	2	1	0	0	4
6月	0	4	4	0	0	0	8

3. 今年度の新規相談受付状況

受付件数 17件 （前年同期 10件）



4. 4・5・6月の相談件数（新規及び継続）

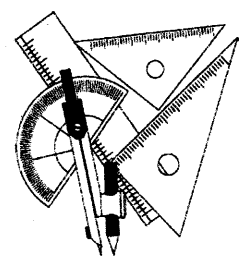
対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		2	3				5
	女		3	4				7
中学生	男		15	4				19
	女		16	1				17
高校生	男		2					2
	女		2					2
少年	男					1		1
	女							0
一般成人	男					2		2
	女							0
計	男	0	19	7	0	3	0	29
	女	0	21	5	0	0	0	26
男女合計		0	40	12	0	3	0	55

5. 4・5・6月の相談回数（55件の相談延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
4・5・6月	男	131	10	12	153
	女	159	6	4	169
	計	290	16	16	322

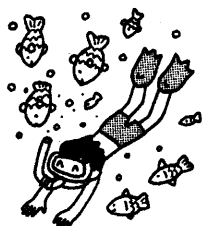
6. 相談指導学級の様子（学級担当より）

昨年度末、中学3年生の通級者6名が卒業し、新たな高校生生活を始めました。何よりの喜びは通級しながら自ら進路を考え、自ら進学先を決定し、一步を踏み出したことです。巣立っていった若者の今後の活躍にエールを送りたいと思います。



本年度の開級は4月10日（金）でした。中学2年生の2名が3年生に進級し、学級での新生活が始まりました。5月に入り、仮通級していた1名が通級生となり、6月末現在3名で生活しています。現通級生がいついかなる場面でも自己決定できるよう支援しているところです。学級では、基本的には自らが考え、決定した4時間の活動と読書の時間とで編成されています。さらに火曜日の午後はスポーツの日、木曜日は体験活動の日として位置づけています。学習の時間では、確かな学力の定着を目指した取り組みが見られます。体験活動は年間30数回を計画し、6月末までに、自然体験（ハイキング・浮島沼自然観察）、学習体験（市立図書館）、職業体験（苗取り・苗の植え付け・除草作業等の農耕体験）、進路体験（高校見学）など、屋外活動を主に行いました。どの活動からも、充実感や達成感、感動を味わうことができたように思われます。これらの学びが、将来に生かされることを願っています。

電話相談



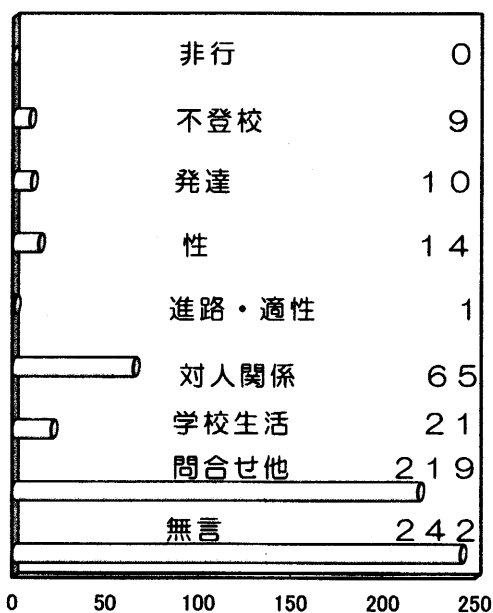
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：午前10時～午後7時
 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

平成27年4・5・6月の状況

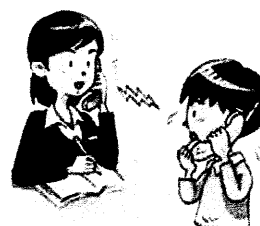
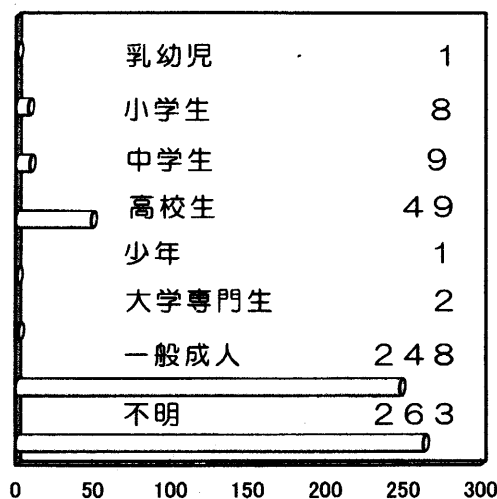
4月には180件、5月には153件、6月には248件の相談が寄せられました。（前年4月：195件、前年5月：133件、前年6月：163件）

1. 4・5・6月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



2. 今年度の電話相談受信件数状況(平成27年度)

総件数 581件（前年同期 491件）

(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	9	10	14	1	65	21	219	242

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	1	8	9	49	1	2	248	263



『 十年一昔 』

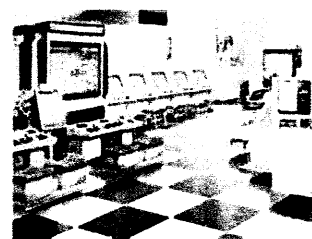
女性補導委員 渡邊みゆき

「おはようございます。今日は、学校はお休みですか…？」女性補導は、月曜日の午前中なので、学生は学校へ行っている時間のはずが…。

「今日は、文化祭・体育祭での代休です。」「修学旅行での代休です。」とかで、遊びに来ている学生を見かける時があります。このような行事がない時期には声を掛けることなく、静かで、穏やかに終了するというのが、ここのところの午前中の現状だと感じています。

私は、補導委員を10年以上させていただいています。この間、街と学生は大きく様変わりしました。最初の頃は、駅南口周辺にはゲーム場が、4軒ぐらいありましたが、昨年、残っていた1軒が閉店し、賑わっていたファーストフード店も無くなり、学生の姿が見られなくなってきました。

学生の服装も、男子は腰パンでした。息子のズボンを後から幾度となくたくし上げたことを思い出します。女子は、スカートが短く、化粧をしている学生の姿がありました。今、このような姿が、見うけられなくなっているのも、非行問題も減少傾向にあるのでしょうか。



少子化が進む中、様々な出来事が起こりうる中で、これからも子供達が安心して過ごせるように願い、見守っていきたいと思います。

1 少年補導委員の延べ参加人数（平成27年4月～6月）

	市職員	教員	女性 補導委員	母 親 補導委員	地区代表 補導委員	警 察	地 区 補導委員	総 数
4月	7	9	0	0	12	0	228	256
5月	5	15	0	0	0	0	323	343
6月	9	18	9	4	7	1	335	383

2 補導回数・補導状況（平成27年4月～6月）

	補 導 回 数				声かけ 注意・指導	事 後 指 導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
4月	3	10	27	40	70	0	0
5月	1	9	34	44	86	0	0
6月	2	10	35	47	100	0	0

3 補導活動累計（平成27年4月～6月）

補 導 回 数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事 後 指 導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
131	982	256	0	0

4 平成27年4月・5月・6月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

本年度の補導がスタートして、3か月が経過しました。補導委員の皆様、今年もどうぞよろしくお願いたします。昨年度と比べ、夜間はいかいの件数は減少しましたが、ゲームセンターへの入場が増加してしまいました。最近、駅北のB i V i周辺にたむろする少年の姿がほとんど見られなくなりました。

区分	学職別		小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月からの計
	性別									
飲	酒	男								
		女								
喫	煙	男			1				1	1
		女								
夜間はいかい		男			15				15	15
		女			15				15	15
不良交友		男								
		女								
怠学・怠業		男								
		女								
ゲームセンター入場		男	8	27	51				86	86
		女	2	24	27				53	53
パチンコ店入場		男								
		女								
カラオケ店入場		男								
		女								
自転車の暴走行為		男		1					1	1
		女								
自転車の二人乗り		男								
		女								
自転車の無灯火		男			7				7	7
		女			1				1	1
危険な遊び		男								
		女								
その他		男	5	13	33				51	51
		女	1		25				26	26
計		男	13	41	106				160	160
		女	3	24	69				96	96
男女合計			16	65	175				256	256

事後指導	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	0
		女							0	0
事後指導	他機関へ連絡	男							0	0
		女							0	0
男女合計			0	0	0	0	0	0	0	0

うちの子に限っては禁物

「子どもを守るための環境づくり」は大人の責務！

「うちの子」だからこそ、親として、確認しましょう！

近年インターネット利用に係る犯罪の被害やトラブルに青少年が巻き込まれるケースが後を絶ちません。インターネットへの接続は、機能が進化し、一部の音楽プレイヤーやゲーム機、タブレットでも可能となっており、利用者が増加しています。保護者の知らない間に我が子が利用している例も少なくありません。



そんな現状の中、フィルタリングの設定が条件となっているにもかかわらず、静岡県の調査では26年度の利用率は、小学生が30.1%、中学生が36.7%。と4割にも満たず、高校生でも5割を割っています。

警察庁の調査では、インターネットに係るトラブルに巻き込まれた少年のほとんどはフィルタリングをかけていませんでした。「出会い系サイト」や「コミュニティサイト」の危険性についても、安易に考えているようです。性被害に遭った女子少年の6割はインターネットに起因するものでした。

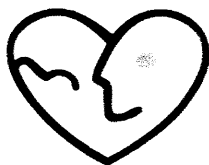
インターネット上の書き込みや不適切なアクセスについても同様です。本人の意思とは係りなくネット上の流れ、加害者になっていたり、いじめに発展していたりする例もあります。子どもを守るのは大人の責務であり、一人ひとりの子どもの親の責務だと思います。

センターの活動予定 (8月・9月・10月の主な活動予定)

日 程	活動(行事) 予定	日 程	活動(行事) 予定
9月 11日(金)	第3回補導委員会代表者会	10月 1日(木)	畑の除草 軽スポーツ
	【相談指導学級体験活動】	13日(火)	新体力テスト(予備日 20日)
9月 3日(木)	畑の除草		【はばたき体験活動】
10日(木)	職業体験(陶芸)	10月 29日(木)	オータムキャンプ(～30日)
24日(木)	学習体験(篆刻 <small>てんこく</small>)		※天候等諸事情により変更することがあります。

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。